

令和元年6月25日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01519

研究課題名(和文)米国の舞踊教育基準書に見られるソマティクスの反映

研究課題名(英文) The Components of Somatics in the Standards for Learning and Teaching Dance in the Arts in the US

研究代表者

福本 まあや (FUKUMOTO, Maaya)

お茶の水女子大学・基幹研究院・助教

研究者番号：10464033

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、全米舞踊教育団体(NDEO)の『芸術における舞踊の学習と指導のための基準書』(2005)におけるソマティクスの反映を明らかにし、米国の学校教員のその適用の状況を調査報告するものである。加えて米国の舞踊教育者によるソマティクスの適用の議論におけるこの語の広がりを示した。基準書の分析では学校現場での適用を想定する3件の先行研究を用いてソマティクスの要素抽出の視点を定めた。その結果、ボディワークの実践のみならず、解剖学的知識や動作分析的用語の理解を実地で示す、動きの探求等にソマティクスの反映が捉えられた。学校教員らのソマティクスの適用は学習者の選択の尊重や動きの探求に共通性が見られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ソマティクスは心身を一元的に捉え内側から感じることを重視する領域である。NDEO基準書にソマティクスがどのように反映されているかに着目することで、「気づき」「調整」という一人称の学びの達成基準を読みとる複数の視点が年齢ごとに抽出された点に本研究の学術的意義があると考えられる。ソマティクスは近年アジア圏の国際学会においても耳にする概念であるが、この用語が、極めて多義的に用いられている状況を、米国の先行研究群を対象に整理し示すことができたことで今後の議論の整理につながると期待できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is identifying the components of somatics in the Standards of Learning and Teaching Dance in the Arts by National Dance Education Organization (2005, 2007) in the US. It is also aimed to report the US school teachers' dance classes and their ways of applying Standards and Somatics.

To gain the theoretical framework of somatic components, I used 3 articles (Green 2002; Brodie and Lobel 2006; Batson and Schwartz 2007). Not only the standard item with the words "Somatic Practice", it is also identified with the items which include the anatomical knowledge which supports one's observing internal body, the movement patterns described with the terminology of the system of movement analysis, and movement exploration. It is observed that the school teachers apply the components of somatics mainly by respecting their students' choices, using movement explorations and the terminology of Lavan movement analysis.

研究分野：舞踊教育学、身体性哲学

キーワード：ソマティクス ボディワーク 舞踊教育 米国教育基準書 体ほぐしの運動 awareness 気づき

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、我が国における身体教育の今日的な問題の一つである「身体と心のかい離」に対処し、確固たる身体性哲学と科学的根拠に基づく多様な方法論を提示することを長期的な目的としている。この「身体と心のかい離」という問題は、体育科教育における「体ほぐしの運動」導入の際に指摘され、研究開始当初の段階で同領域における「気づき、調整」の方法論が確立していないという先行研究者らの指摘が見られた。この指摘には、「気づき、調整」という身体の自律的な局面に学習者自身がアプローチする学習であるため、その学習をどのように導くかの方法が不明瞭という問題に加えて、学習成果の度合いを確認する客観的な基準をどのように説明し得るかという問題が含まれていると本研究者は考えた。

「体ほぐしの運動」の理論的背景の一つにあると指摘されていたソマティクスは、米国では全米舞踊教育団体 (National Dance Education Organization、NDEOと略す) のジャーナルにおいてその教育への適用の重要性が指摘され、同団体が発表した『芸術における舞踊の学習と指導のための基準書』(2005、2007) (NDEO基準書と略す) にソマティクスという語が見られた。ここでいうソマティクスとはT. Hannaが1970年代に提唱した領域であると同時に、ソマティック・プラクティスとかソマティック・システムと呼称されることもある身体を内側から感じることを重視する様々なボディワークを指す。ボディワークの方法論は「体ほぐしの運動」導入の際にも注目されていたが、指導法が専門的すぎるとのことや、学習者の身体の間にアプローチするという危険性があるという指摘がされていた。

本研究の開始時点において、舞踊を含む『全米コア芸術科目教育基準書』(2014)は既に発表されていたが、NDEO基準書はそれに先立ち舞踊のみで独立して作成され、その序文には基準作成の背景にある舞踊観が述べられている。またNDEO基準書は基準項目の数が多く、説明が具体的である。そのためNDEO基準書を対象に、ソマティクスの学習内容がその基準項目に反映されている実際を抽出することができるならば、ソマティクスの方法や考え方を学校教育に適用する事例が明らかになり、そのことは我が国の「気づき、調整」の方法論確立に資する原理や用語法を得ることにつながると期待された。

2. 研究の目的

本研究では、NDEO 基準書においてソマティクスの要素の反映を明らかにすることを目的とする。そのためまず NDEO 基準書の概要や歴史的な位置づけを確認する。続いて舞踊教育者らはソマティクスという語のもとで、どのような学習内容や指導の目的を指摘しているかを確認する。そこからソマティクスの要素を基準書の文言より抽出する際の参照枠を構築し、同基準書の各項目よりソマティクスの反映を明らかにする。加えて、米国の学校教員らは NDEO 基準書とソマティクス適用の実際を明らかにすることを目的とした。

作業を進める中で、米国舞踊教育関係者の中でソマティクス(somatics、somatic)という語は、極めて多様な意味で用いられ、彼ら自身がその状況を認識しながらも整理、統合しようとする動きがないことが NDEO 全国大会での調査を通して確認された。この語が盛んに使われる米国の舞踊教育者らの間では、語の多義性は同時に多様な試みを認める環境ともなり得る。一方、部分的な事例の報告に基づき議論を展開せざるを得ないアジア圏の国際学会などでは理解の隔たりを生みだしかねない。そこで、本研究では上記に加えて、米国の舞踊教育者らが適用しようとするソマティクスの語義の広がりとその指導哲学を明らかにすることを目的に加えた。

3. 研究の方法

使用した主な文献資料および実地調査は次の通りである。

- (1) NDEO 基準書の歴史的な位置づけ、用語の理解のために使用した主な文献資料および調査
 - a) 2005, 2007 National Dance Education Organization, Standards for Learning and Teaching Dance in the Arts: Ages 5-18.
 - b) 2012 Prepared by Rima Faber, Ph.D., National Dance Education Organization for the National Coalition for Core Arts Standards, Standards for Learning and Teaching Dance in The Arts and 21st Century Skills : An Analysis of the Standards for Learning and Teaching Dance in the Arts (2005) As Compared to the 21st Century Skills Map for the Arts.
 - c) 2015, ラバン動作分析法 及びバーテニエフ・ファンダメンタルズの導入クラス研修の受講ノート, LIMS, New York.
- (2) ソマティクスの要素抽出のための参照枠構築のために使用した文献資料
 - d) 2001-2017, National Dance Education Organization (ed), Journal of Dance Education.
 - e) 1976-1992, T. Hanna et al (ed), Somatics: Magazine-Journal of The Bodily Arts and Sciences.
 - f) 2016, 全米芸術コア科目基準書の執筆者 4 名へのインタビュー調査、NDEO 全国大会, Washington.
- (3) ソマティクス及び舞踊教育基準書のダンス授業への適用の実際に関する実地調査
 - g) 2015 年 10 月、高校におけるダンス授業の視察、アリゾナ州フェニックス市内 3 校.
 - h) 2017 年 11 月、高校におけるダンス授業の視察、テキサス州サンアントニオ市内 3 校.
 - i) 2017 年 3 月、ノースカロライナ州の公立高校 1 校、市立小学校 1 校及びミシガン州の公立高校 1 校におけるダンス授業の視察、及びそれぞれの指導者 3 名へのインタビュー調査.
 - j) 2016 年 10 月、2017 年 3 月及び 11 月、Jill Green 氏へのインタビュー調査、ノースカロライナ大学グリーンズボロ校.

4 . 研究成果

(1) NDEO 舞踊教育基準書の位置づけと特色

NDEOは2005年に、他の芸術領域の3分野（音楽、美術、演劇）と足並みをそろえるために、芸術プロセス「創る(Creating)」「演じる(Performing)」「応える(Responding)」「相互につなぐ(Inter-connecting)」を大区分として作成された基準書である。ベンチマーク学年とされる4、8、12年生それぞれの学習の達成基準が、4つの芸術プロセス全体に12の下位区分、さらに68から83(学年によって異なる)の基準項目に細分化され説明されている。同書は2014年版の全米基準書が発表されるまでの期間、1994年版基準書とともに各州や各学区の基準書の根拠資料としての役割を果たす(Faber, 2012, p.3)。学校教育ばかりではなく学校外のダンス教室などの指導も対象に構想され、40人のタスクフォースメンバー(執筆陣)にはダンス・カンパニーや私設ダンススクールの関係者などが含まれる(NDEO, 2005, p.4)。

2014年版全米基準書の作成に向けて行われた調査(上記資料b))の結果、NDEO基準書における「演じる」の基準項目の多くは、21世紀型スキルとして期待される批判的思考、創造的イノベーション、コミュニケーションを促進するものではないと判断される。Faberはそのことをダンス教育が行われる現場の問題を反映したもので、NDEO基準書そのものの方針を評価するものではないとしている(Faber, 2012, p.4)。2014年版全米基準書の執筆者の1人は、NDEO基準書の基準項目の内容は具体的で、指導現場を知る者が作成した現場寄りの基準書だったと指摘する(NDEO全国大会における筆者によるインタビュー, 2016)。これらのことが

ら、NDEO 基準書の特徴は、教員や研究者が現場と研究の知見を集結し、芸術教育としての舞踊の在り方を検討した最初の基準書であり、具体的な指導内容を想定しながら達成基準の小分類までが記載されている点に見ることができる。

(2) NDEO 基準書に見るソマティクスの成分

NDEO のジャーナル掲載の論文(2001-2017)よりソマティクスに言及する論文は 19 件確認される。そこにはソマティクスを舞踊教育に取り入れることによる学習の効果および狙いとして、身体の内側の感覚への気づきの洗練、身体構造についての理解の深まり、神経系の再教育、過剰な筋緊張の解放、身体の可動性とコントロールの向上、楽な・効率的な動き方の習得、[骨格の]アライメントの改善、怪我の予防、心身の統合、表現性の深化などの指摘がある。

学校教育への適用を論じた3件の先行研究 Green(2002)、Brodie and Lobe(2006)、Batson and Schwartz(2007)を対象にソマティクスの要素抽出の視点を定めた。その際に Johnson(1990-1991)及び福本(2013)を参考にソマティクスの要素を抽出する上で「何に気づきをフォーカスするか」「どのように気づきのフォーカスを導くか」「その学習の狙いは何か」という3つの問いを立てた。この問いの答えにあたる文節を抽出してソマティクスの要素の参照枠とし、基準の各項目の説明が該当するかないかという判別を行った。その結果、芸術プロセス「演じる」の下位区分「1.身体」「2.動きのスキル」及び「4.上演の価値」にソマティクスの要素が確認された。確認された説明内容には「ソマティクスの実践」という語のみならず、「解剖学的理解を実地で示す」「動作分析的な用語を用いた運動パターンを実地で示す」「動きの探求」などが確認された。また3件の先行研究より、身体の特定の部位に気づきの焦点をあて、効率的な動きの探求や、動きの先行部位や内的なエネルギーの流れを観察することなどにより固有受容感覚を洗練し、緊張の解放と心身の調整を生じさせるという理論が確認された。

(3) ソマティクス及び舞踊教育基準書のダンス授業への適用の実際

米国の学校教育におけるダンス授業の実際を把握するために、研究方法 g)、h)、i)に挙げた高校8校(アリゾナ州3校、テキサス州3校、ノースカロライナ州1校、ミシガン州1校)、小学校1校(ノースカロライナ州)を訪問し視察した。いずれの高校にも劇場型の客席と舞台があり照明機材が付帯する施設が確認された。アリゾナ州及びテキサス州の高校2校の公開授業ではバレエのバーレソンが行われた。著名な振付家やダンス・カンパニーの作品レポーターを学ぶ授業が別の2校に見られた。こうした技術訓練を重視する傾向や既成作品を教材に取り込む様子は NDEO 全国大会での研究発表においても確認される。これらは米国の学校教育におけるダンスが、技術的な洗練を支え怪我予防につながる指導法を必要としていて、教育者らのソマティクス適用のニーズが潜在的に高いことを示していると考えられる。

ソマティクスの適用の実際は、ノースカロライナ州(教員A)及びミシガン州(教員B)の公立高校教員、及びノースカロライナ州の市立小学校で指導する同州の大学教員(教員C)による授業への視察及びインタビューを通して確認された。教員A及び教員Bは学習者の選択を尊重するという指導方針をとる点にソマティクスの影響が色濃く確認される。教員Cは A. G. Gilbert の Brain Dance(神経発達の科学的知見を踏まえ、ラバン/バーテニエフ法というソマティクスに含まれる動作パターンを取り入れたダンスの指導法)を採用している。

教員Aに、州が定める指導基準の各項目を指導計画にどのように反映するかを示したノートの資料提供を受けた。そこには当該学期の全ての授業の日程が示され、どの基準項目をどの時点で何を通して指導するかが計画されている。その順番は基準書に示された順とは異なり自由

に組み立てられていることが確認される。

3名の教員、及び、研究者 Green 氏（専門はソマティクス及び舞踊教育）に、NDEO 基準書の基準項目の説明にソマティクスの要素の反映の有無を問う聞き取り調査を加えて行った。その結果、教員 A、教員 C は筆者が（2）で得た結論と同じ判断を行った。教員 B はこれに加えて、芸術プロセス「演じる」の下位区分「3.ダンスの要素, b.時間」に含まれる音楽の要素にもソマティクスの反映があると判断した。一方で Green 氏は、項目説明に見られる「ソマティクスの実践」という語のみがその反映であり、それ以外はソマティクス特有の指導方針をとらずとも指導は可能であると述べた。彼女は、指導者によっては、「解剖学的理解を実地で示す」や「動きの探求」を、ソマティクス的に - 学習者が内側から自らの身体を感じることの重視ではなく、定形の評価基準を設けてしまう可能性がある」と説明する。ソマティクスの学習内容を、客観的に判断可能な文言として基準項目に反映することは難しいと見ている。

（4）米国舞踊教育におけるソマティクスの指導哲学

NDEO 基準書にソマティクスの反映を確認するという本研究の目的と方法論の妥当性は、前述の Green 氏の指摘によって出発点に戻ることになった。すなわちソマティクスという語の広がり、この語をめぐる、米国の舞踊教育者らは、舞踊における動きや身体の学習においてどのような考えを示しているかをあらためて整理することである。

その結果、ソマティクスの舞踊教育への適用には、表現的なダンス経験はいずれもソマティックなものとする研究、個々のボディワークのダンス授業での有用性を示す研究、ソマティクスの適用を通して民主主義的なダンスの授業を提案する研究、ソマティクスという語を学習者が身体を内側から感じる運動学習として捉え、舞踊教育に外在的な動きや姿勢のモデルを設定すること自体の弊害を指摘する研究、という広がり確認される。は、20 世紀における舞踊芸術の発展は身体の内側の感覚への探求から出発しているものであり、ダンス学習は基本的にソマティックだとしている。は、ボディワーク特有のストレッチ法や呼吸法を取り入れることがダンス授業をソマティックな学習にするとする。は、複数のボディワークより抽出された運動学習の原理と指導方針に言及するもので、指導者と学習者が民主主義的な関係を主張し、学習者自身が自ら動きの良さを判断できる基準を指導者は示すことや、動きの反復的練習や授業後の振り返りの重要性を指摘している。は、キネシオロジーに基づく理想的な骨格配列や効率的な動き方というモデルそのものが、学習者に自らの身体のオーソリティーを損なわせる可能性を持つと注意を促し、科学的に実証されている原理であれ、ボディワークの方法であれ外在的なモデルの押しつけがあれば、そこに学習者の人間性を疎外する可能性がある」と指摘する。

（5）まとめ

新学習指導要領が告示され、「体ほぐしの運動」の説明からは「調整」の語が取り除かれ、本研究開始時に着目していた問題意識は議論の場を変える必要が出てきた。そのためここでは、NDEO を中心とする米国の舞踊教育研究者らのソマティクス適用をめぐる議論を踏まえて、我が国の体育におけるソマティクス適用の可能性をまとめとして検討したい。我が国のボディワーク、例えば野口整体や野口体操では、解剖学的な説明や生理学的な説明が行われない傾向が見られる。それは気概念に基づく身体観が優先され、解剖学など西洋医科学に対する懐疑的な精神性から生じているとも見える。外在的なモデルを置かない優れたソマティクスの指導方針としても映る。しかし一方でこの傾向は言葉を介さずに「とにかくやってみる」という指導にもつながりやすく、学習者は言葉による対話を失い、実地で動きを示すことのできる指導者に盲従する文

化につながりやすいとも考えられる。ボディワーク実践者らの開かれた対話と、米国のソマティクスに関する研究の蓄積を参考に、一人称の知覚や運動経験を説明する用語の整理と提案を行うことがこうした問題に対する解決策につながると推察される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 1 件)

福本まあや「野口整体とボディ・マインド・センタリングの比較研究」『お茶の水女子大学人文科学研究』15 巻、pp.203-216、2019 年 3 月発行、査読有。

〔学会発表〕(計 3 件)

福本まあや「ソマティクスの指導哲学 米国舞踊教育での議論を中心に」日本体育スポーツ哲学会第 40 回大会、山梨大学、2018 年 9 月 2 日。

福本まあや「NDEO 舞踊教育基準書の概要とソマティクスの成分抽出の試み」舞踊学会第 68 回大会、宮崎市民プラザ、2016 年 12 月 3 日。

福本まあや「日本のボディワーク考案者の著述の検討 1.ジノアの主張を手掛かりに」平成 27 年度体育哲学専門領域夏期合宿研究会、箱根青雲荘、2015 年 7 月 18 日。

〔シンポジウム / 招待講演等〕(計 3 件)

福本まあや「米国におけるダンスとソマティクスの現状」ソマティック運動教育研究会、京都女子大学、2018年3月3日。

IZAKI, Yayoi; FUKUMOTO, Maaya., “The Current States and Future Perspectives of Dance Education in Japan”, 2015 International Symposium of the Korean Society of Dance (招待講演) (国際学会), Sang-Myung University, Seoul, Korea, 2015年11月7日。

FUKUMOTO, Maaya., “Reports on Dance Education in Japan”, NDEO International Panel, 2015 National Conference (国際シンポジウム), National Dance Education Organization, Phoenix, USA, 2015年10月9日。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1)研究分担者 なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名：ジル・グリーン、メリンダ・ワーゲル、アマンダ・ピー・クック、クリスティーナ・シアーズ・エター。

ローマ字氏名：GREEN, Jill; WAEGEL, Melinda; COOK, Amanda P.; ETTER, Christina Sears.

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。